

校長	教頭	教頭

科目名	建築設計製図		教科名	工業（建築科）	
学年	3年	単位数	3単位	担当者氏名	印

1 科目「建築設計製図」について

学習の到達目標	製図に関する日本工業規格及び各専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。
使用教科書	実教出版社「建築設計製図」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
自分が設計する建築物を表現するためにはどのような図面が必要で、どの尺度で表現するのが適切かを理解する。	エスキスチェックにおいて、平面計画・構造計画が適切にされている。	設計意図が他者に理解されるような表現で必要図面が作図されている。	自分の設計意図がいろいろな表現方法で描かれていて、正確・丁寧に図面を表現できる。
具体例 資料収集 平常の学習活動、学習態度	プランニングの提出	<ul style="list-style-type: none"> 図面提出 表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 図面提出、 図面が正しく描かれているか。

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

シラバス

科目名	製 図			教科名	工 業 (建築科)
学年	3 年	単 位 数	3 単 位	担当者氏名	印

校 長	教 頭	教頭

学期	月	内 学 容 習	学 習 目 標	学 習 内 容 ・ (評 価 の 観 点) 及 び ※留意点	評 価 方 法 ・ 指 導	補 助 教 材
1	4	鉄筋コンクリート図面 (CADトレーニング) 配置図・平面図 立面図・断面図 部分詳細・断面詳細	実例を通して、鉄筋コンクリート造図面の設計順序・方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 鉄筋コンクリート造の設計の仕方・考え方・構造の特性について理解する。(関・思) 1・2年で学んだ学習を踏まえ、jwCAD、アーキトレッドどちらかを選択し、2学期からの卒業設計製図に向けて、CADの操作を理解・習得する。(関・技) 	課題提出	
	5					
	6					
	7					
2	9	卒業設計製図 テーマ決定 ・ 資料収集 エスキスチェック① エスキスチェック② エスキスチェック③ エスキスチェック④ 設計主旨・配置図 平面図 断面図	自ら卒業設計テーマを設定し、資料収集・エスキスを積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に学習した作図法を応用し、自分のテーマに向けて設計の準備を整え、積極的にエスキスをうけ、コンセプト・平面計画・構造計画をすすめていく。(関・思) エスキスのチェックを完了したら、CADによる図面作成に取りかかる。(関・技・知) 	課題提出	資料プリント 新建築 卒業生の設計製図図面
	10					
	11					
	12					
3	1	立面図 パース 図面の手直し 完成・提出	各図面を完成させ、表現・レイアウトを工夫する。	配置図、平面図、断面図、立面図、パースを印刷する。再度、図面の整合性をチェックし、手直して提出図面を完成させる。 (技・知)	要求図面提出	
	2					
評価方法		建築製図の基本である正確・丁寧を中心に評価する。 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。				

校長	教頭	教頭

科目名	建築法規（選択）			教科名	工業（建築科）
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

1 科目「建築法規」について

学習の到達目標	建築関係法規に関する基礎的な知識と技術を習得させ、建築物の設計、施工、管理などに活用する能力と態度を育てる。
使用教科書	実教出版社「建築法規」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
建築基準法だけではなく法体系全般にも関心をもち、意欲的に学ぼうとする意識がある。	法律的な考え方の大枠をつかみ、それに応じた判断力ができるようになる。	条文の構成を理解し、その内容を読みとり、わかりやすく表現することができる。	法規の体系・構成を理解し、法律上の定義などの意義を認識している。
具体例 出席状況、提出物 平常の学習活動、学習態度	ペーパーテスト、 観察力、	・創意工夫やアイデア	ペーパーテスト、 レポート内容

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

シラバス

科目名	建築法規 (選択)			教科名	工業 (建築科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

1 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
1	4	2	建築法規の起源	時代によって変化する法規に関する考え方はことを理解する。	建築法規への興味・関心が持てるようにする。 (思・知・関)	行動観察 発問や生徒の活動の場面を多くする	プリント
		8	建築物の特徴	建築物と自動車や電気製品、衣類などの品物と比較しての違いを理解する。	「安全性の確保」、「確かめにくい品質」、「周辺への環境への影響」、「都市施設への負担」など、の特徴を理解する。(思・知・技・関)	行動観察 教科書を読ませる 机間指導 ノート提出 学習内容理解の確認	プリント
	6	4	建築基準法の意義と効果	法規の意義を個々の建築物、集団としての建築物の観点から理解する。	個々の建築物の技術的基準などに関する「単体規定」、相互の影響を整理したり都市施設と都市活動の調和等に関する「集団規定」があることを理解する。 (思・知・技・関)		
		7	4	法規の体系	上から憲法、法律、政令・省令、条例・細則、告示という体系になっていることを理解する。	建築基準法の構成を図を見ながら理解する。また、条文の構成に関しても多数のルールから成り立っていることを知り、その読み解き方を条文を参照しながら学ぶ。(思・知・技・関)	行動観察 教科書を読ませる 机間指導 ノート提出
		4	建築基準法の構成	条文の構成について理解する	建築基準法の構成を図を見ながら理解する。また、条文の構成に関しても多数のルールから成り立っていることを知り、その読み解き方を条文を参照しながら学ぶ。(思・知・技・関)	学習内容理解の確認	
1学期の評価方法			定期考査(60%) + 観点別評価(出欠、小テスト、ノート提出等) 数量化点(40%) 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。				

シラバス

科目名	建築法規 (選択)			教科名	工業 (建築科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

2 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材	
2	9	2	性能規定	部材性能の水準を定めた性能規定を理解する。	「性能規定」の具体例を挙げながら実際に現場で使用していく流れを理解する。(思・知・技・関)	行動観察 発問や生徒の活動の場面を多くする 教科書を読ませる 机間指導 ノート提出 学習内容理解の確認	プリント	
		4	建築基準法の用語	正確に条文を理解することが重要な為、法令用語、建築用語の定義について理解する。	特別の意味をもつ「以上/以下」、「越える/未満」、「及び」「並びに」、「又は」、「若しくは」、「準用する」、「この限りではない」についての読み解き方を理解する。 用語の中で「建築」、「大規模の修繕」について学ぶ。(思・知・技・関)			
		10	4	建築基準法の面積算定	各種面積算定の仕方を理解する。			建築基準法には5種類の面積の算定方法がある。その中の「敷地面積」、「建築面積」について図を参考にしながら理解する。(思・知・技・関) 「床面積」、「述べ面積」、「築造面積」について図を参考にしながら理解する。また、例題を使って具体的な面積算出を学ぶ。(思・知・技・関)
		11	10	一般構造についての規定	採光、換気、各部の高さ、階段・廊下について理解する。			「採光上有効な窓面積」、「採光補正係数」、「居室の種類から分けられる採光有効面積」などを、図と例題を解きながら説明する。(思・知・技・関) 「換気の方法」や「程度の規定」、「居室の用途」、「居室を使用する人数」、「火の使用の有無」などでの影響があることを理解する。(思・知・技・関)
2	12	6	構造強度についての規定	構造耐力の原則と構造計算、構造計算の原則等について理解する。	「許容応力度等計算」の適用、限界体力計算とはどういうものかを理解する。(思・知・技・関) 建築物は、「自重(固定荷重)」、「積載荷重」、「積雪荷重」、「風圧力」、「地震力」などの力に対して安全な構造でなければならないことを理解する。(思・知・技・関)	行動観察 教科書を読ませる 机間指導 ノート提出 学習内容理解の確認	プリント	
		4	各構造の種別ごとの規定	木造建築物に対する規定について理解する。	「木材」、「土台及び基礎」、「柱の小径」の各部分を図で理解し、各部の安全性の規定を学ぶ。(思・知・技・関)			
2学期の評価方法			定期考査(60%) + 観点別評価(出欠、小テスト、ノート提出等) 数量化点(40%) 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。					

シラバス

科目名	建築法規 (選択)			教科名	工業 (建築科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

3 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
3	1	10	各構造の種別ごとの規定	鉄骨造・鉄筋コンクリート造について理解する。	鉄骨造に用いる鋼材等は工場生産品で JIS 規格などがあり、安定した高い品質をもつことや、接合部の重要性について学ぶ。(思・知・技・関) 「コンクリート材料」、「コンクリートの強度、調合、養生、型枠など」、「鉄筋の継手と定着」、「鉄筋の被り厚さ」などを図を参照しながら学ぶ。(思・知・技・関)	行動観察 発問や生徒の活動の場面を多くする 教科書を読ませる・ 机間指導 ノート提出 学習内容理解の確認	プリント
		2					
	3	4	都市計画法と建築基準法	都市計画法と建築基準法の集団規定の目的について理解する。	都市計画は三つの計画(土地利用に関する計画、都市施設の整備に関する計画、市街地開発事業に関する計画)を基本理念にもとづいて定められていることを知る。(思・知・技・関) 都市計画区域内の建築規制に対する概要(集団規定)を理解する。(思・知・技・関)		
		4	土地利用	都市計画区域の区分と用途地域について理解する。	「市街化区域と市街化調整区域」について。それぞれの意味と目的を学習する。特に市街化調整区域は無秩序な市街化を抑制する効果が高いことを理解する。(思・知・技・関) 秩序ある土地利用のもとでの良好な都市環境を形成するための用途地域について学ぶ。(思・知・技・関)		
3 学期の評価方法			定期考査(60%) + 観点別評価(出欠、小テスト、ノート提出等) 数量化点(40%) 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。				

科目名	建築施工			教科名	工業(建築科)
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

1 科目「建築施工」について

学習の到達目標	建築施工に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。
使用教科書	実教出版社「建築施工」

2 評価の観点および評価基準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
建築施工の あらし	建築物に興味関心を持ち、技術者として必要な知識を身に付ける意欲がある。	建築施工は多数の人々の共同作業であり、それぞれの業種を知ること、互いの関連を知ることによって次の工程を考えることができる。	特に工程表について学習し、各作業を理解するとともに、その関係を工程表として表すことができ、簡単な日数計算ができる。	建築生産における人的要素が果たすべき役割を知り、それらが専門的な技術を駆使して建築物を作り上げていくことが理解できる。
敷地の調査 と測量	建築物がいかにして地上で安定状態を保っているかに興味を持ち、その理由を知ろうとする意欲を持っている。	地盤調査および測量は施工計画を立てるために必要なものであることを認識する。	調査・測量に必要な機器類の名称と使用方法などを理解し、結果を測量図として表すことができる。	敷地測量・工事測量に関する知識を実習などで活用することができる。
仮設工事	建築物の生産過程における仮設物の役割と、直接工事との関係について関心を持つことができる。	総合仮設工事と直接仮設工事を明確に把握し、工事の進行による仮設物の必要、不必要を判断できる。	仮設物の種類・材料・工法などを理解し、初歩的な仮設工事計画図を描くことができる。	すべての仮設工事は本工事を安全かつ正確に行うための補助的役割を担うことを理解し、安全を最優先しながら実施するものであることが認識できる。
具体例	出席状況、提出物、平常の学習活動と態度、提出物、課題	ペーパーテスト 観察力	創意工夫やアイディア 小テスト、発言、発表	ペーパーテスト、 レポート内容、発表内容における創意工夫

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断できるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断できるもの	50～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

4 各学期および学年の評価方法 各学期および学年はシラバスに記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	85～100	5
十分に満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

シラバス

科目名		建築施工			教科名	工業(建築科)	校長	教頭	教頭
学年		3年	単位数	2単位	担当者氏名	印			
学期	月	時間	単元名	学習目標	学習内容および留意点	評価・指導方法	補助教材		
1	4	4 5 6 7	第1章 建築施工のあらまし 1. 建築施工の意義 2. 建築生産にたずさわ る人々 3. 施工の実施方式と 建築業務	わが国の建築生産の過程、建築施工の内容を明らかにし、施工関係者、企業の形態と特質を理解し、さらに建築施工の方式と建築業務のあらましについて学ぶ。	・建築生産、建築施工の要点を理解する。(関・知) ・施工に関係する人的要素が果たすべき役割を明らかにし、企業形態などについて学習する。(知) ・施工者の選定・契約・工事の計画と工事・財務・労務・資材および現場管理について学習する。(関・知)	行動観察 教科書朗読 ノート提出	プリント		
2	9	4 4 10 4 6 11 4 12 4	第2章 敷地・地盤の調査と測量 1. 敷地・地盤の調査 2. 測量 第3章 仮設工事 1. 仮設工事 2. ベンチマーク・縄 張・遣り方・心出し 3. 仮囲い、仮設建築物 4. 足場 5. 用水・電気設備 6. 工所用機械類	施工計画を立てるためには調査と測量が重要なことを認識し、各種方法について学習する。 仮設工事計画の良否は、工事全体の進行、工事の安全、工事の経済性に大きく影響するものであることを理解させる。	・敷地、地盤の調査方法。 ・敷地測量の方法。 ・工事測量の方法と手順。 (技・知) ・仮設工事の重要性を理解し、工事計画の作り方のあらましを習得する。(関・知) ・ベンチマーク・縄張・遣り方・心出しの目的と方法を学習する。(技・知) ・仮囲いの目的と種類・施工方法、仮設建築物の構造・機能について学習する。 ・足場の計画・種類・管理について学び、作業の安全が重要であることを理解する。 ・工事用水と仮設電気の計画段取りについて学習し理解する。(関・技・知) ・工事作業用機械のあらましについて知り、工事に適する機械の選定方法を理解する。	行動観察 教科書朗読 ノート提出 行動観察 教科書朗読 ノート提出	プリント 模型 プリント 実物 写真		
3	1	8 2							
評価方法： 定期考査（約60%）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40%）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。									

校長	教頭	教頭

科目名	測量（選択）			教科名	工業（建築科）
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

1 科目「建築法規」について

学習の到達目標	測量に関する基礎的な知識と技術を習得させ、建築物の設計、施工、管理などに活用する能力と態度を育てる。
使用教科書	実教出版社「測量1」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
測量に興味を持って積極的に取り組み、グループで協調的に作業が行えている。慎重な態度で実習に取り組み、より正確な結果を求めようとする姿勢がある。	状況に合わせて、測量方法を組み合わせて測量を行うことを理解できる。少しの誤差の差が欠課の差として表れることを理解できる。	精度の求め方を理解し、慎重な測量が必要なことを認識している。	巻き尺、平板、水準測量用器具、標尺、トランシット等の器具の取り扱いや据え付けを理解し目的に応じて測定することができる。
具体例 出席状況、提出物 平常の学習活動、学習態度	提出物、 観察力、	<ul style="list-style-type: none"> 考察力 計算力 	ペーパーテスト、 レポート内容

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1